

老健局

安心して暮らし続けられる地域作りに向けて

Mission

我が国は、世界に例を見ない高齢社会を迎えています。
団塊の世代が75歳以上となる2025年には、

- ・3人に1人が65歳以上（現在は4人に1人）、5人に1人が75歳以上（現在9人に1人）になる
- ・中重度の認知症の高齢者は、現在の280万人から470万人に増加する
- ・4世帯に1世帯が、高齢者の単独世帯や夫婦のみの世帯になる

・特に都市部では75歳以上の人口が急増すると見込まれています。

介護保険制度は、介護が必要になったときの高齢者やその家族の生活を支える制度です。世界でも長寿社会のトップランナーと言える我が国で、高齢者福祉を担う老健局は高齢者が安心して自分らしく生活できる社会の構築に取り組めます。

要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・介護予防・住まい・生活支援が包括的に確保される仕組み（地域包括ケアシステム）の構築に取り組んでいます。

【政策紹介 1】

地域包括ケアシステムの構築

高齢化の進展に伴う介護費用の増大は、高齢者や現役世代の保険料や公費負担に影響します。今後とも、高齢者やその家族のニーズに応えるとともに、将来世代に引き渡せる持続可能な制度としていくことが必要です。

あわせて、都道府県に消費税財源を活用した基金を設け、介護基盤の整備と人材確保を推進しています。

平成26年6月に成立した「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」では、地域包括ケアシステムの構築を推進するための介護保険制度の改正を行いました。医療介護連携や認知症施策を進めるための地域支援事業の充実や高齢者の多様なニーズに応えるため全国一律の予防給付を市町村が取り組む地域支援事業へ移行させることで、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるようにしていきます。

また、介護保険制度の費用負担の公平化を図るために、低所得の高齢者の保険料軽減の拡充、所得や資産のある人の利用者負担や給付範囲の見直しなどを行っています。

地域包括ケアシステムとは…

- 「地域包括ケアシステム」とは、地域（中学校区を範囲として想定）で①医療、②介護、③介護予防、④住まい、⑤生活支援、の5つの要素が包括的に確保される体制のことです。
- 地域包括ケアシステムの実現により、重度な要介護状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるようになることを目指しています。
- 地域包括ケアシステムは、市町村が、地域の自主性や創意工夫に基づき、民間事業者やボランティアなどの様々な主体が参加して作り上げていくことが必要です。



【政策紹介 2】

認知症になっても安心して暮らせる社会

認知症は、誰にでも起こりうる脳の病気によるものですが、本人にとっても家族にとっても老後の大きな不安の1つとなっています。また、環境の変化により徘徊などの症状が悪化することがあるなど、その症状が深刻になれば、自宅での生活が難しくなることもあります。認知症の方にこそ、住み慣れた環境で安心して暮らせる環境作りが重要です。

本年1月には、政府一丸となって認知症に関する取組を進めるため、「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」を策定しました。これにより、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指しています。



[ねんりんピックではつらつとプレー]

【政策紹介 3】

誇りを持って長く働ける介護現場に

現状のままでは2025年までに介護職員が約30万人不足すると見込まれており、介護現場を支える人材を確保していくことが求められています。

介護職員は他の産業に比べて賃金が低く、離職率も高い傾向にあります。介護現場で働く人たちが、誇りを持って長く仕事を続けていけるように総合的な施策を講じています。

例えば、平成27年度の介護報酬改定では、介護職員の処遇改善のための加算を充実させるなど、介護職員の賃金の引き上げや、キャリアパスの確立に取り組んでいます。

Keyword 認知症サミット後継イベント

認知症は世界的な共通の課題となっており、平成25年12月にはイギリスで「G8認知症サミット」が開催されました。そこでは、認知症に関する様々な問題に対し、G8各国が一丸となって取り組むことが宣言され、こうした流れの中で平成26年11月5日～7日に、「新しいケアと予防のモデル」をテーマとした「認知症サミット後継イベント」が日本で開催されました。

このイベントでは、世界各国から認知症のケアや予防に関わる政府関係者、専門家、認知症の方ご本人、そのご家族など、多くの方が参加し、活発な議論が行われました。これらの議論は、認知症の予防とケアの理論や実践の更なる発展へとつながっていくことが期待されています。



[認知症サミット日本後継イベントの様子]